

機械クラブだより

創刊号

◎『機械クラブだより』創刊号

2001年3月1日 発行

◎神戸大学KTC機械クラブ

機械クラブ会員の皆様へ



機械クラブ会長 井上 理文 M②

会員の皆様にはますます御健勝のことをお慶び申し上げます。平素は機械クラブの同窓会活動に対し、格別の御理解と御協力をいただき厚く御礼申し上げます。さて我々の機械クラブは6000余名の卒業生で、80年近い歴史を有する伝統と格式のある同窓会であります。平成10年に機械クラブの会長をお任せから以来、諸先輩方の築かれた伝統と榮誉を継続すると共にさらに若々しい世代の活力を活かし魅力ある組織とすべく関係者一同努力しています。

会員の皆様方へは機械クラブの活動状況としての総会、理事・幹事会、講演会、見学会、懇親会更に学校との交流、研究活動への援助等を広くお知らせし、機械クラブの活動に御賛同をいただき、ふるって御参加していただけるようにしていかたいと考えていますので、皆様方の御協力、御指導、御鞭撻を賜りますようお願い致します。次に主な活動方針について、以下に示します。

1 会費導入についてのお願い

機械クラブの財政は機械クラブ名簿(4年に1回)発行時の企業広告代を主な財源としていましたが、不況の影響と企業の倫理等で企業広告が減少し、広告代に頼ることが無理と判断せざるを得なくなりました。平成12年3月24日の総会で会費制導入につき審議いただき、会費制もやむなしとして御承認をいただき、平成13年度より導入することとなりました。財務部会を中心に準備を進めてまいり、この度、初回の会費を納入していただければ幸いです(詳細は財務部会の「お願い」による)。

* 機械クラブ会員全員より会費として2000円／年納入いただけます。

* クラス講座幹事がクラス会等でマツメで納入もOK

会費をいただく以上会計は明確なものとし、新たに監事(2名)をおき会計監査を厳正に行うこととしました(平成12年3月総会で会則の改正を御承認いただきました)。

学内現状報告



特別会員代表 大前 伸夫(機械工学科長)

機械工学科では、別表に示した教職員の構成で、研究と教育に邁進している。教育の重要性を認識し、学部・大学院ともに新しいカリキュラムを発進させ、21世紀における優れたエンジニアの養成に努力を続けている。平成12年度の学部学生数は516名、大学院前期課程145名、同後期課程40名であり、学部から前期課程への進学率は53.1%と非常に高い。また、留学生の数は23名である。

機械工学科の構成(2000.10.1現在)

教育・研究分野	教 授	助 教 授	助 手	技 官 等
機械システム設計学 (MS-1)	岩壺 卓三	河村 庄造 松田 光正 講師	安達 和彦	福井喜一郎
素材物性工学 (MS-2)		藤居 義和		
機械システム材料学 (MS-3)		猪飼 靖	徳納 久睦	
エネルギー変換工学 (MS-4)	藤井 照重	竹中 信幸	浅野 等	杉本 勝美
エネルギー環境工学 (MS-5)	中島 健	能登 勝久 池田 裕二**	宋 明良	中崎 千善 江本栄梨奈
数理機械 MP	富田 佳宏 イマリヤ エントマイクロソーリング ニリング (MP-2)	安達 泰治 大前 伸夫	屋代 如月	古宇田由夫 横田久美子
混相流工学 (MP-3)		富山 明男*		
マイクロメカニズム工学 (MP-4)	中井 善一	日和 千秋*		
数理機械解析学 (MP-5)	仲田 雄作		田中 隆治	
流体エネルギー形態学 (MI-1)	薦原 道久*	小川 和彦	片岡 武*	井上 章子
知能システム創成学 (MI-2)	上田 完次	大倉 和博	長坂 一郎	竹内紀美子
機械情報制御工学 (MI-3)	神吉 博	鶴野 逸生***	藤井 信忠	
コンピュータ統合生産工学 (MI-4)	森脇 俊道	社本 英二	樋野 励	道脇 昭
人工知能応用機械工学 (MI-5)	田浦 俊春*		塙瀬 隆之*	
計算物理機械工学 (MI-6)	森田 喜保			
知能機械加工学 (MI-7)				
事務室				森鼻 尚子

* : 大学院自然科学研究科、** : 機器分析センター、*** : 総合情報処理センター

工作技術センター

大根 正人、高濱 邦高、山田 昌利、義澤 康男、吉田 秀樹

平成12年度 機械クラブ役員

名誉会長：谷井 昭雄 PII／会長：井上 理文 M②兼会員親睦会会長／会長代行：常慶 直久 M⑥財務部会長／副会長：島 一雄 P5、坂口 忠司 M⑧、井上 忠雄 M⑧総会部会長、水谷 純一 M⑧、上田 英夫 M⑩、野村 稔郎 M⑫名簿部会長、藤井 照重 M⑯会誌部会長、角野 克巳 M⑯見学会部会長、末積 俊治 P②、赤対 秀明 M⑩会員部会長、小川 和彦 P⑩、沖田 淳也 M⑩／顧問：(旧教官) 鳴滝良之助、山本 明、若林 信生、赤川 浩爾、進藤 明夫、中川 隆夫、木村 雄吉／顧問：上西 圭治 M4、宮脇繁雄 M10／特別会員代表：大前 伸夫／学内幹事：富田 佳宏 M⑯講演会部会長／学内幹事補佐：松田 光正 M⑩、安達 和彦 M⑩／学内会計：田中 隆治院3/監事：池内 久和 M③、上原 尚廣 M⑤／常務理事：岡澤 治 M⑤／理事：田中 和鶴海 M21、足立 凡夫 P3クラブ精密部会長、岩井 宏充 P9、大谷 圭史 M27、山村 裕 M①、宇野 正 M②、杉浦 篤 M②、菊本 廉 M⑤、山登 英臣 M⑤橋本 勲 M⑦、永島 忠男 M⑨、植田 雅晴 M⑪、森岡 宏次 M⑫、中桐 正博 M⑫、木本 恭司 M⑬、田中 正夫 M⑭東京支部長、西鶴 政道 M⑭、神吉 博 M⑮、柄谷 祐司 M⑯、徳納 久睦 M⑯山岡 高士 M⑯、柴坂 敏郎 P②、多田 幸生 M⑩、遠山 克己 M⑩、鈴木 洋二 M⑩、高野 真一 M⑩、尾野 守 M⑩、池田 裕二 M⑩、浅野 等 M⑩、細川 茂雄 M⑩、浜田 貴弘 M⑩、樋野 励 P⑯、安達 泰治 M⑩

2 大学の独立行政法人化へ 機械クラブとしての対応

大学の独立行政法人化が現実のものとなる予定です。その折は産一学協同更に地域への貢献が重要となります。我々卒業生は、産業の担い手として各分野で活躍しています。同窓会が卒業生と母校とのパイプを太くすることで産一学の関係がより密接になり、よりよい母校となるよう活動していきたいと考えています。

通商産業省機械情報産業局産業機械課課長 佐々木伸彦氏の講演より引用をさせていただきます。

「アメリカは産と学が非常に近い。いい大学になる為にはいい学生を集めなければいけない。そのためには企業からいい研究テーマと研究開発資金を引っ張ってくることが大学の先生の評価につながっていく。企業にとどめ大学を使うことで優秀な研究スタッフを得ることができます。あるいは、大学のもっている知識を使うことができるという意味で産と学の関係が非常に近く、大学が企業に対してネットワーキングの場を提供するという状況になっています。」

3 会員の増強とクラブ活動へ参加のお願い

役員は会長、副会長、顧問、特別会員代表、学内幹事ほか、理事、監事で構成され、理事・クラス幹事会は総会と共に決議機関でもあります。特にクラス幹事はクラスの核としてクラスの方々に情報を伝達していただく機械クラブ活動の重要なポストとして位置づけられています。若い世代の参加が少ない傾向があります。社会的に年代的に時間のとれないこともあります。しかし、クラス幹事の各位の協力が欠かせません。大学が大きく発展する中で学年の人員が多くなり、現在では約120名位となり、学年単位より研究講座単位でのまとまりができる。従って研究室・講座毎に数年度の卒業生から幹事を選び、従来のクラス幹事と同様に活動を願うことしました(平成12年3月総会での会則改正による)。研究室幹事は学内先生方の御協力で実現致しました。以上のように組織的に連絡なり情報の伝達がしやすくなりました。幹事の方を中心には若い世代の方々が機械クラブ活動に参加していただき、活力を生かしていただけるように切望しています。

4 学内状況と各部会活動のPR

機械工学科がどのような状況か又各部会の活動を皆様に知っていたいことで、理解もされ、参加の興味ももたれると思います。IT化の中でPRにどのような方法があるか、目下会誌部会、名簿部会等を中心に検討されていますが、今回は準備時間の関係上「ミニ新聞」的に「機械クラブだより」を発行することを致しました。

5 名簿発行について

同窓会としては名簿は貴重な財産ですし、皆様の今後の活動にもお役に立てるものです。従来機械クラブでは4年に1回発行(企業広告付)していました。その間に年にKTC(工学振興会)が4年に1回工学部全体の名簿を発行しています(結果的に2年に1回の発行となる)。パソコン、Eメール等の使用が日常化の中で名簿のあり方について名簿部会で検討しています。有益な興味ある名簿になり、従来の企業広告に代る財源収入もつながればと、個人的な考えもっています。

6 坂口基金について

坂口前教授の退官時の御好意により、基金を機械クラブでお預かりして、学生の海外研修を支援する目的で補助金として拠出しています。平成11年度は3名の方に贈呈し、その研修結果を講演会で発表していただき大変好評でした。この基金は有限ですが、今後機械クラブの会費制が実のあるものとなり財源が豊かになれば、機械クラブとして研修なりに補助金が出せるようになりますと想っています。

大学の独立行政法人化に伴い大学としての工学部機械工学科と、卒業生としての機械クラブがより密接に連携し協力し合うことが望れます。我々の母校がますます発展することが私達の願いであります。又機械クラブの会員がお互いに知り合い語り合うことで親睦がはかれ、更に社会で、仕事で助け合えることを願っています。

今後ますますの御支援を賜りますようお願い申し上げます。

「機械クラブ坂口基金」による、学生の海外派遣支援

常務理事 岡澤 浩 M⑤

れの研究室・国際会議及び開催都市などは、次の通りである。(略 敬称)

・川上賢一郎(上田研究室)

The 3rd World Multi-conference on Systems, Cybernetics and Information at Orlando, Florida (USA)

・Yuan Xi(袁熙)(富田研究室)

The 5th Asia Pacific Symposium on the Advances in Engineering Plasticity and Its Application at Hong Kong (CHINA)

・比嘉吉一(富田研究室)

The 8th International Conference on Mechanical Behavior of Materials at Victoria (CANADA)

なお、平成12年度に関しては、機械クラブ総会[平成13年3月23日(金)]にて贈呈の予定で進められています。

機械クラブ 会則

第1条(名称) 本会は、神戸大学KTC機械クラブと称する。

第2条(目的) 本会は、会員と母校との連絡、会員相互の親睦をはかり、技術者の人格向上に寄与することを目的とする。

第3条(構成) 本会は、次の会員で構成する。

(1) 旧神戸高等工業学校および旧神戸工業専門学校の機械科ならびに精密機械科の卒業生およびこれに準ずる者。

(2) 神戸大学工学部機械工学科ならびに生産機械工学科の卒業生およびこれに準ずる者。

(3) 神戸大学大学院工学研究科機械工学ならびに生産機械工学専攻の修了者。

第4条(幹事)

(1) 卒業各クラスに、クラス幹事(若干名)および研究室幹事(若干名)を置く。

(2) 前項の幹事は、各クラス会員・各研究室会員それぞれの互選、もしくは現職教官の推薦により、これを決める。

(3) 幹事は、本会の運営に最も重要な役割を持ち、年数回のクラス幹事会に参加し、積極的に本会の発展に寄与する。

第5条(役員)

(1) 本会の運営のため、名譽会長、会長、副会

長(若干名)、理事(若干名)および監事(若干名)を置く。任期は2年とし、兼任は、これをさまたげない。

(3) 機械系教室の現職教官は特別会員となり、この中より特別会員代表および学内幹事を選ぶ。機械系教室内に、事務局を置く。

(4) 理事および監事は、幹事会で幹事の推薦により、これを決める。理事の互選によって会長、副会長を選任する。

(5) 本会に顧問を置くことができる。

第6条(会合) 本会の目的を達成するため、年1回の総会および数回の会合を催す。

第7条(事業) 本会は次の事業を行う。

(1) 機関誌の発行(年1回)。

(2) 会員名簿の発行(4年に1回)。

第8条(会計) 本会の運営費は、会員またはその所属する企業団体の寄付金、KTC本部からの配分金、および会員一般よりの会費ならびに特別徴収金でまかなう。この経理は、監事がこれを監査するものとする。

第9条(支部) 本会は、必要と認めた方に支部を開設することがある。

第10条(会則の改正) 会則の改正は、総会の承認を必要とする。

部会・支部 activity report 活動報告

財務部会

部会長 常慶 直久 M⑥

機械クラブの財務は4年毎に発行する「会員名簿」の企業広告費を主財源とし、不足すれば特別寄付金を募って運営されてきた。

しかし、長引く不況により広告費に期待する事が困難視され、平成12年版名簿発行はついに中止のやむなきに至った。これに代わる財源の確保として会費制導入を検討し、平成12年3月の総会で承認を得た。平成12年はこの準備期間とし、平成13年度より実施することとなった。会費の集金業務と集金事務費用の軽減が財務部会の役割であり、課題でもある。これら

を上手くこなす事により財務改善に結び付けたいと願っている。

活動の状況は、4年前の初年度より部会内では予測される事態への検討を重ねてきた。他の部会も関係するが、母校の独立行政法人化に伴う同窓会のあり方、特に会員名簿の内容および本務の年会費制導入案についてはディスカッションを重ねた。また、この一年は会費制導入の検討に終始した。部会内で原案を練り、部会長会議、あるいは幹事会へ提案、最終案をまとめた。さらに、これのバックアップ体制として下記の内容は順次実現の方向であり、同時に同窓会全体の体制強化に繋がる内容と思っている。

1) 場所の確保…KTC事務局のご好意によりKTC事務所内にスペースを確保できた。

2) 設備の新設…PC(EMAIL、ホームページ、集計業務用)、TEL、FAX等を設置、受入れ体制に万全を期し、会員とのコミュニケーションを図る。

3) 係員の在席…会費制本番の当初、常駐は無理であるが、部会員が当番制で事務所に出向き、ボランティアで対応できる体制を確立したい。

今後の課題

1) 会費制本番スタートに対応。

a) 会員のデータベース作り。

b) 卒業年度毎(クラス幹事)のフォロー。

c) 会員が5人以上在席する企業毎のフォロー。

2) 収支の予算化による財務の精度向上。

3) 他部会との連携強化。

総会部会

部会長 井上 忠雄 M⑧

会長及び常務理事を補佐して総会及び理事・幹事会等を担当させて頂いております。特に、各種会合後の懇親会の司会を担当致しております。最近、懇親会の参加者も少し減少傾向にあります。皆様方の協力を得て積極的に参加をして頂き、懇親の輪を広げていきたいと思っておりますので、よろしく御協力の程お願い致します。

名簿部会

部会長 野村 稔郎 M⑫

機械クラブ会員名簿は関係者の非常なご尽力によって、ほぼ4年ごとに発刊されておりましたが、平成12年度版は休刊となりました。これは從来においても困難であった広告収入が当節の社会経済状況においては到底望めないと認識に基づく判断がありました。

会費制への移行に伴い、本名簿はクラブの運営費を広告収入により集めるという役割を解かれました。しかし同窓会活動の原点として名簿は刊行を続けるべきとの視点で、この際より利用価値のある形を検討しております。

記載項目を従来の氏名・勤務先・現住所のみならず同窓会各位の ①主な活動・アッピール点など同窓会を通じて互いのネットワーク作りに役立つ情報、②大学研究室の研究活動の紹介により産学交流の活性化の一助にする等が議論されておりました。広告の形態についても從来の企業広告のほかに、③名刺代わりの個人広告も募る(低価格広告)、ITとのかかわり方についても④メールアドレスの記載をはじめとして、⑤より便利な相互コミュニケーションのあり方を探る等の提案が出ております。

機械クラブ会員皆様のご意見・ご希望・アイデアを頂いて機械クラブ会員名簿を21世紀型のより魅力あるものにしていくのが名簿部会の役割であります。皆様の積極的なご協力をお願いいたします。

会誌部会

部会員 柴坂 敏郎 P②

法人化への動きを反映して、「変貌する神戸大学」と題して特集を組み、大学の大きな変化をお知らせしています。また、社団法人の機関誌として同窓会活動のみならず、研究内容にも重点を置き、卒業生との共同研究を含めた連携が取りやすいものを企画しつつあります。この企画方向を基に編集委員長、副委員長を中心各号でほぼ毎月1回、発行まで計5回委員会を開き、原稿内容・募集・収集先の原案作成、著者内訳、目次案作成などの作業を行っています。同窓会に関する内容については主にKTC事務局の方々が精力的に収集整理されています。

今回の「機械クラブだより」の今後の参考に、会誌「KTC」の活動に触れたか、これとは独立した形で住み分け、補完し合うものとして「機械クラブだより」を展開、充実させるために、どのような内容が可能か、あるいは希望されるか、これを機会にご意見戴ければと思います。なお、ボランティア的活動ですので会員皆さまのいろんな形でのご協力が戴ければ幸いです。

見学会部会

部会長 角野 克巳 M⑯

去る平成12年9月9日(土)にキリンビール(株)神戸工場の見学会を開催した。

当日の参加者は進藤先生や昭和17年卒業の大先輩を始め合計37名の方々が参加。PM1:00に貸し切りバスで三宮を出発し、見学先では神戸工場の工場長から「ビール産業と環境について」の説明をお聞きし工場とビオトープの見学後、待望のビールの試飲をさせて戴き、PM5:00に現地を後にした。試飲ビールの味わいとは別に最先端の環境対策の現場を直に見学でき、参加者各位にとって有意義な一日であった。

講演

工場見学

ビオトープ見学



会員部会

部会長 赤対 秀明 M⑧

約1年前、「なぜ会員が増えないのか?」という根本的な問題から議論を始めました。同窓会のメリットがない。中堅は会社で忙しく、同窓会に関する時間が取れないし、同窓会を育てようという気にもなれない。最近は団体行動よりも個人行動の方が好む、などの意見が出ました。これを打開するには、先輩・同輩・後輩との繋がりができれば、仕事上非常に有利である

こと、IT化の時代に入り人脈が非常に重要なこと、の認識を持つてもらう必要がある。そうすれば、どんなに忙しくても同窓会を大切にするはずである、という結論になりました。しかし、実際はこれを伝えて、実感してもらわないでどうしようもなく、結局、地道に同窓会に誘い、少しずつ関心を持ってもらわないとしかたないということになりました。

また、クラス幹事が機能していないクラスが多いことが話題にあがりました。特に中堅以下の若い世代のクラス幹事はほとんど幹事会にも参加しません。これはなぜか? 一つには昔とくらべ、現在は一クラス100人

規模となっているため、これを二人程度の幹事で掌握するのは無理があるということです。それであれば、研究室単位の幹事を設け、もう少し小規模単位でくつくるはどうかということになりました。そこで、平成12年6月17日付けで、各研究室に「研究室幹事」の推薦をお願いしました。しかし依頼文に提出期限等が明記されておらず、あいまいな状況になっていました。そこで、現在、研究室幹事の推薦を再度お願いしている段階です。

この研究室単位の幹事と從来のクラス幹事がうまく機能し、機械クラブが盛況になることを期待しております。

講演部会

部会長 富田 佳宏 M⑯

講演部会では、毎年以下の4つの講演会を行っております。総会記念講演会以外は、機械クラブ三月会(機械クラブの新制大学の部会)において、機械クラブ員と大学教官ならびに学生との交流を目的に、坂口忠司教授(現名誉教授、機械クラブ副会長)を中心となって設立されました。それぞれの講演会は下記のような目的を持っております。

「総会記念」講演会:OBを中心に機械クラブ関係者代表(OB of the year)による特別記念講演会。「先輩は語る」講演会:1987年にスタートした講演会で、本学を卒業し各業界において多くの業績をあげておられる方々にお願いして、学生諸君に、企業の現状、そこでの機械技術者の仕事内容とその役割、

そして大学での教育がそれらにどのように反映されているかを、講師の仕事の説明を通して講演していただく講演会。六甲祭協賛「機械工学先進研究」講演会:神戸大学六甲祭協賛学術講演会として、1996年にスタート致しました。機械工学科の教授を講演者に招聘し、六甲祭参加者を対象として、当該分野の研究の到達点「State of the art review」を講演頂く講演会です。この講演会を通じて、多くの方々に、機械工学科の研究・教育面での活動が、直接・間接社会の発展に寄与していることを理解していくことを目的としております。「若手教官は今」講演会:機械工学科の若手教官による専門分野の研究講演会で、各教官の最新の研究とその社会的意義等を説明いただいております。機械工学科におきましても、研究についてのまとまった話を伺える好個の機会と受け止めております。下記に平成12年度の講演会の講演者ならびに講演題目を掲載致します。

- 「総会記念」講演会／平成12年3月24日(金) 私学会館
講演者: 石原 国彦 氏 (川崎重工業(株)明石技術研究所 振動・機械システム研究部 参事)
講演題目: 流体騒音の基礎研究の現状と今後の課題
- 「先輩は語る」講演会／平成12年6月17日(土) 工学部 LR501教室
講演者: 田中 守 氏 (三菱重工業(株)技術本部高砂研究所 振動・騒音研究室 室長)
講演題目: 重工業メーカーにおける研究開発
- 六甲祭協賛「機械工学先進研究」講演会／平成12年11月12日(日) 六甲台本館 232号教室
講演者: 森田 喜保 教授
講演題目: 強度設計と原理原則
- 「若手教官は今」講演会／平成12年12月9日(土) 工学部 LR501教室
講演者: 田川 雅人 助教授
講演題目: 低地球軌道における材料劣化現象
講演者: 大倉 和博 助教授
講演題目: 適応する機械システムを目指して -計算知能からのアプローチ-

クラブ精密部会

部会長 足立 凡夫 P3

クラブ精密・第13回総会を平成12年11月8日(土)開催し、ご来賓として鳴滝良之助先生ご夫妻、山本明先生、神戸大学工学部・森脇俊道工学部長、富田佳宏教授を迎、前機械クラブ会長・田中和鶴海氏にも特別参加を戴き、下記の行事を行いました。クラブ精密会員の参加数は下記の通りでした。

行事内容

1. 工学部内諸施設の見学
2. 工学部長・森脇俊道教授の講演

3. 懇親会(瀬川記念学術交流会館)

参加者

- P1-足立昌三、大石政智、高木照也、由良泰造、山本明
P2-梅原迪、北嶋信也、横田覺
P3-足立凡夫、菊沢博、辻泉、浜口寿男、吉川信、中西久延
P4-泉吉夫、小川敬司、加納康雄、帶刀清彦
P5-海英夫、塩谷房夫、島一雄、高木源三、森田茂二
P6-楠田実、西尾達郎
P7-小野昭夫、金森敬明、高橋祐一、玉越進、中西宏
橋本義昭、三木武三
P8-抱博史、清水史郎
P1-東哲郎、今井正一
P2-木村裕宗、馬舟祐一、本岡信二、和田崇
(以上会員40名)

東京支部

部会員 遠山 克己 M⑯

東京支部は、東京・関東周辺の機械クラブ員が対象です。

1. 活動状況

- 1) 機械クラブの東京支部総会主催:1回/年、5~7月頃 総会、機械工学科卒業生による講演会、懇親会の3部構成です。
出席者に近況などをしゃべってもらい、情報交換をしています。会場は有楽町の帝国劇場地下にある東京凌霜クラブ・KUCが多いです。

- 2) KTC東京支部総会共催:1回/年、11月頃

3) 神戸大学木曜会(東京における全学部同窓会の交流の場)への参加

4) 東京・関東周辺に就職した新卒者への東京支部への勧誘:4月頃

2. 今後の活動

IT社会における同窓会運営はどうあるべきかを幹事で議論しているところです。定期的な総会の他に、卒業生が情報交換を日常的に出来る場を提供するのも今後は重要なことになると思っています。機械工学科の方々、是非この輪の中へ入ってください。

編集後記

頁数の制限から字が小さく、読みづらい点がありますが、ご了解ください。
ご意見、また記事を頂ければ幸いです。
(藤井 照重 M⑬、浅野 等 M⑯、FAX: 078-803-6122)